

おし さいばんかん
「**教えて！裁判官**」

つみ おも
Q. **罪の重さ**はどのように

はんたん
判断していますか？

しょうがく ねんせい
(**小学3年生**)



さいばんかん
裁判官が
こた
お答えします！

何を守るためのルール？



罪の重さを考えるためには、まず、どうして、刑事裁判という仕組みがあるのかを考えることが大切です。

刑事裁判とは、簡単に言うと、ルールを破った人に対して、罰を与えるための手続です。では、どうして、ルールを破った人に罰を与えなければいけないのでしょうか。それは、そのルールによって守ろうとしているものを守るためです。

例えば、人を殺してしまうと殺人罪という罪で処罰をされて、刑務所に入るなどしなければなりません。これは、人を殺した人は刑務所に入らなければいけないというルールを決めることによって、人を殺すことをやめておこうと考える人を増やし、できるだけ人の命を守ろうとしているのです。人の物を盗む場合も同じです。人の物を盗むと窃盗罪という罪で罰を受けますが、これは、人のお金や持ち物をほかの人から守るためのルールです。

そして、罪の重さを考えるには、そのルールが何を守ろうとしているのかを考えることが大切です。殺人罪と窃盗罪では、守ろうとしているものが違います。人の命とお金や持ち物では大切さに違いがあります。もちろん、人の命の方がずっと大切です。なので、殺人罪の方が窃盗罪よりも重い罰を受けるということになります。

おな せつとう つみ おも おな 同じ窃盗なら罪の重さも同じ？



つぎ おな つみ
次に、同じ罪であれば同じ罰を受けるというわけではありません。同じ罪でも、事件によって罪の重さは違いますが、罪の重さを考えるのに、もう一つ大切なことは、ルールを破るようなことをしたから罰を受けるのであって、悪い性格や考え方を持っているから罰を受けるのではないということです。「何をしたか」が大切なのであって、どういう人であるかは大切ではありません。そして、「何をしたか」を考えるには、どういう方法でしたのか（方法）、それによってどんな被害があったのか（結果）、どうしてそんなことをしたのか（理由）といったことを考えることが大切です。

たと おな ひと もの ぬす せつとうざい じぜん あんしょうばんごう て い しんや
例えば、同じ人の物を盗む窃盗罪でも、事前に暗証番号を手に入れて深夜に銀行に忍び込み金庫を開けて何億円ものお金を盗み出すのと、つついおいしそ
うだったのでお菓子屋さんで50円のおまんじゅうを万引きしてしまうのでは、
ほうほう けつか りゆう まった ちが おな せつとうざい
方法、結果、理由が全く違います。そうすると、同じ窃盗罪であっても、「何を
したか」が違ってくるので、受ける罰の重さも違ってきます。

全国どこでも公平に判断



最後に、もう一つ、罪の重さを考えるときに大切なことがあります。同じようなことをした人が受ける罰の重さが、裁判所によって違いすぎると不公平だということです。たとえば、50円のおまんじゅうを万引きしたときに、東京の裁判所で裁判を受けると3年間刑務所に行かなければいけないのに、京都の裁判所での裁判では罰金10万円を払えば済むというのでは、あまりに不公平です。なので、これまでの裁判の積み重ねによって、「何をしたか」ということに応じて、**大まかな罰の重さの枠**のようなものがあるとされています。この大まかな枠というのは、私たちが、そのルールによって守られるものをどれだけ大切だと考えているか、「何をしたか」を考えるときにどのような事情が大切だと考えているのかによって決まってきます。何が大切かというものの考え方は、時代の変化によって変わっていくものもあるので、それに応じて罰の枠自体が変わっていくこともあります。

まとめると、ルールが守ろうとしているものの大切さ、「何をしたのか」、私たちが何を大切だと考えているのかによって、罪に対する罰の重さが決まってくるということになります。